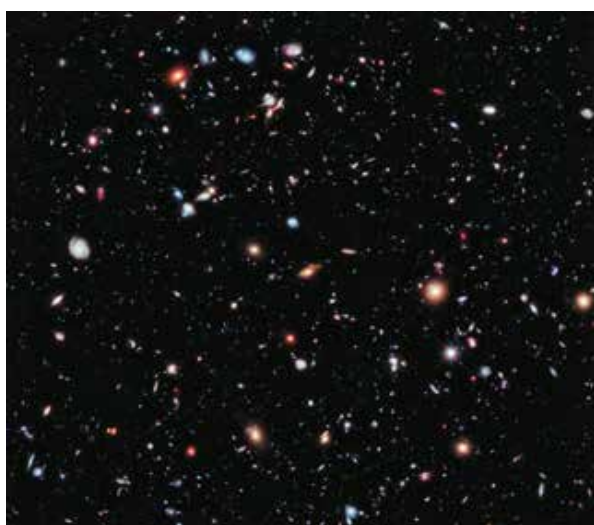


聖書的創造論者の宇宙論：概要

ジョン・ハートネット著 / 宇佐神実訳

遠い星の光が（地球に）届くのにかかる時間の問題は、聖書的創造論者にとって長い間難題でした。ビッグバン宇宙論者もやはりこの問題は難題となっています。しかし創造論者は、過去数十年にわたって、この難題に対する答をいく通りか提案してきました。近年私が提案しているのは、最初にジェースン・ライルが提案した論文「聖書的創造論者の宇宙論」を発展させたものです。これは多少専門的なので、一般向けにこれを説明しようと考えました。



ハッブル・エクストリーム・ディープ・フィールド：提供 NASA
観測可能な宇宙の端に存在する非常に遠い銀河。

創造主が、創世記 1 章に記されている順序通りにご自身がすべてを創造したなら、そこに記されているすべての出来事は、その示す通りに約 6000 年前に 24 時間を 1 日とする連続した 6 日間で起こったはずで、ライルは、これらの出来事（星の創造）は光が最初に地球に到達した時点、あるいは、仮に地上に観測者がいた場合にその観測者が光を最初に目にした時点で起こったと提案しました。その要点は、星や銀河の創造で、ある光は 100 億光年以上もの距離から到達したというものです。もし私たちが観測者の視点（どう見えるか）のみを考慮するならば、これらの銀河やすべての星の光が最初に届いたのは、創造の第 4 日のどこかの時点です。

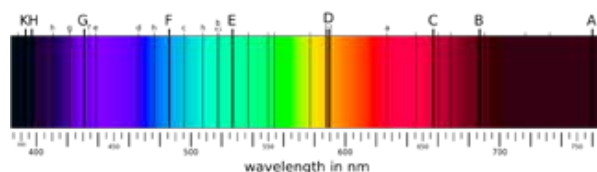
もし、光の速度は一定 (c) であるという視点からこれを見れば、光は 1 年で 1 光年の距離を進むので、遠

い星の光は 100 億年以上もかけて地球に到達したということになります。したがって、この視点から宇宙を考えるならば、すべての銀河は創造主が創造の第 1 日に地球を創造するはるか前に造られたということになります。しかし、これも単に観測者の視点（どう見えるか）の問題なのです。「光の速度は一定 (c) である」という仮定は、（始点と終点にある）複数の時計の時刻が一致していることを想定しています。私たちは同様に、これとは別の想定、すべての出来事は観測者が目撃した時点で起こったとする想定を選ぶことができるのです。そうすると、「新しく」造られた星々や銀河の光が、創造の第 4 日に地球に到達したのです。それは、本当にこれらの銀河が造られた時に発せられた最初の光です。

私にとって、このモデルで解決しなければならない唯一の問題点は、これが聖書に合致しているかどうかです。次の聖書箇所が主な判定基準となり、それは天地創造が、文字どおりに 1 日を 24 時間とする連続した 6 日間で行われたかどうかです。

「それは主が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された。」 出エジプト記 20:11

私は、「観測者の視点（どう見えるか）」で考える時、それはこの聖書箇所明らかに合致していると考えます。それぞれの日の長さは、「こうして夕があり」ということばで次の日の同時刻までが刻まれています。光が最初に地球に到達した時点から出来事の時間が図れるようになったはずだからと、間隙説やその他のナンセンスな提案を導入することはできません。天地創造のすべての日は文字通り地球時間で 24 時間を 1 日とする連続した日だからです。



赤方に偏移していると言われるスペクトル線 :Wikipedia

日	創世記の創造の順序		ビッグバン進化論の出来事	順序
1	地球		光	1
1	やみ		やみ	2
1	水		星	3
1	光		水	4
2	海		太陽系	5
3	乾いた陸地		地球	6
3	最初の生物（草花）		乾いた陸地	7
3	樹木		海	8
4	太陽系		最初の生物（単細胞生物）	9
4	星々		魚類	10
5	魚類		樹木	11
5	鳥類		昆虫	12
6	哺乳類		爬虫類	13
6	爬虫類		鳥類	14
6	昆虫		哺乳類	15
6	人類		人類	16

次の表の出来事を見るなら、ビッグバンを信じる理由としてはいけないことがわかります。もし私たちが、今から約 6,000 年前に、創造主が今日私たちの見ている宇宙を創造したと仮定するなら、それは星々の光が最初に地球に到達した時、最も遠い銀河の星の光は地球時間で 100 数十億年をかけて到達したことになります。しかもそれは、その星の最初の状態を示しています

それにも関わらず、私たちは若い宇宙と呼ぶことができ、それは最初に光が地球に到達した時のことが刻まれたということができます。この時間の考え方に従って、私たちは宇宙は 138 億歳ではなく、約 6,000 歳とすることができます。そして創造主が目的とする時間の長さが必要なだけで、宇宙は安定している必要も、何らかの平衡状態に達している必要もありません。宇宙は膨張していないかもしれません。宇宙は静的（膨張も収縮もしていない状態）か準静的かもしれません。聖書に膨張する宇宙を無理やり読み込む必要はありません。また、遠い銀河の光に見られる赤方偏移も、特別な創造が行われた結果と見ることはできないのではないかと私は考えています。

私は、このモデルを他の様々なモデルの中で最上位に置いています。以前提案した「時間が引き延ばされるモデル」よりも上です。ライルが提唱したモデルは、物理学のさまざまな難題に答える多くの可能性を秘めています。しかも星の光が到達するのに必要な時間の問題は存在しません。しかしかつて私が提唱したモデルをまだ完全に諦めたわけでもありません。そこには、いくつかの難題があり、それを解決する必要があります。参照 更新情報：宇宙論への応答。さらに、以下の論文にも番号順にすべてお目通しください。

関連文献

- 1 膨張する宇宙 - 暗黒科学
 - 2 聖書的創造論者の宇宙論
 - 3 創造された宇宙の赤方偏移に関する考察
 - 4 超新星爆発の残骸と宇宙の年齢
 - 5 星の光の速度と時間の問題を解く創造論者の異方性時間規定モデル I
星の光の速度と時間の問題を解く創造論者の異方性時間規定モデル II
- 注：（）内は翻訳者補足